

第5回都市計画マスタープラン策定検討部会 会議録

1. 会議の年月日、開閉時刻及び場所

- (1) 会議の年月日 令和2年7月14日(火)
- (2) 開閉時刻 午後1時30分から午後3時40分
- (3) 場所 コミュニティセンター201・202 会議室

2. 委員の出欠

(1) 出席者

- (委員) 嘉名部会長・松中副部会長・東委員・荒川委員・田中委員・森岡委員・黒部委員
- (事務局) 北田都市整備部長・有山都市計画課長・内蔵都市計画課課長補佐
浜田都市計画課主幹・三木都市計画課技師
株式会社地域計画建築研究所 清水・橋本・長谷川

(2) 欠席者

佐藤委員・松尾委員

3. 会議の公開・非公開の別 公開

4. 傍聴者数 4名

5. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 資料1 次期都市計画マスタープランの構成(案)
- (3) 資料2 はじめに
- (4) 資料3 第1章 これからの生駒の都市づくり
- (5) 資料4 第2章 都市づくりの目標と戦略
- (6) 資料4-2 説明用 PPT
- (7) 資料5 第3章 目標を実現するための都市づくりの方針
- (8) 資料6 第4章 地域特性に応じたまちづくりについて

6. 次第

- (1) 開会
- (2) 全体構想について
- (3) 地域特性に応じたまちづくりについて
- (4) 閉会

7. 調査検討内容等

(1) 次第 2 全体構想について

- ・事務局から説明（資料 1、資料 2、資料 3、資料 4、資料 4-2）
- ・意見等

部会長 第 1 章について、本編に掲載する際はデータを追加するということか。人口推計なども追加すべきでは。

事務局 今回の資料で掲載しているデータは一部であるので、今後追加していく予定である。

委員 都市づくりの課題について、1-2 ページに市民意向調査の結果として、「身近な生活道路の整備状況」、「歩行者・自転車のための道路の快適性・安全性」などが、満足度が低く、重要度が高いと出ているが、実際に市としてもこれらを課題として捉えていたのか。事実と市民の意識は合致していたか。

事務局 身近な生活道路の整備状況に関する指摘は常にあり、市としても課題として捉えている。傾斜地という地形上、また、昔ながらの道路の拡幅は難しい。幹線道路については歩道整備を行っているが、生活道路の歩道整備については遅れているという実感は持っている。

委員 回答者の地域性は偏っているのか。

事務局 ニュータウンは道路の課題は無いが、既成市街地については、先ほど述べたような状況は多いのではないかと考えている。

部会長 今回の資料はポイントを絞ってまとめられている。今回、課題として7つの項目が挙げられているが、大きくは押さえられているのではないか。

第 1 章については、特に大きな意見は無く、基礎データについて今後追加していくということをお願いする。第 2 章についてはどうか。

委員 第 1 章、第 2 章の中で使われている言葉として「都市づくり」と「まちづくり」、「場づくり」という言葉が出てくるが、これら3つをどのように使い分けているのか。

事務局 「まちづくり」は総合計画の中でも使われている言葉であり、都市計画だけではなく広い意味でのまちづくりと考えている。「都市づくり」は都市計画の

分野でのまちづくりと考えている。整合がとれていない部分もあるので、確認し修正したい。

委員 「都市づくり」は、空間を意識した言葉であり、「まちづくり」は、暮らし方や住まい方、社会生活を意識した言葉であるのは理解できた。しかし、「場づくり」は多様な場面・場所で使われており、これはどのように使い分けているのか。

事務局 第1章、第2章の中では、「コミュニティの場をつくる」という意味で「場づくり」という言葉を使用している。暮らしに直結した身近な場をイメージしている。

部会長 「づくり」という言葉に「都市」、「まち」、「場」という3つの言葉がつく。先ほどの意見は、これらをしっかりと整理して使ってほしいということである。整理されているのであれば問題ないと思う。

おそらく「都市づくり」という言葉は都市計画マスタープランの中でよく使用される言葉で、基盤整備等を含めた都市の将来像を指すものである。「まちづくり」には2つの考え方があり、1つは住民の方の意見などソフトな面も含めた都市計画よりも広い概念、もう1つは地域の方と取り組む、ご近所づきあい、町内会などの規模でのまちづくりである。「都市づくり」と「まちづくり」は、お互いに関係づけが必要で、どちらも進めていかなければいけないものである。「場づくり」は他の2つとは少し違い、別の言葉でおきかえると、「機会の創出」と置き換えられるのではないか。場所を使う、用意するということもあるが、例えばコミュニティーセンターで機会を用意するということでも良いかもしれない。言葉づかいについてはしっかりと整理してほしい。少し気になるのは、第1章で、「都市づくり」の中に「まちづくり」という言葉が出てくることである。「都市空間づくり」という言葉も出てくる。この辺りは精査しておいてほしい。

委員 2-8ページの都市構造概念図について、これまで生駒市は住宅都市として発展し、多くの方が大阪に通勤しているという状況を踏まえると、交通網の広域連携を含めた都市構造を考えていく必要があると考える。

2-13ページに都市拠点として生駒駅周辺が示されているが、生駒駅は傾斜地に立地しており、開発して広げることが非常に難しい。地形や地勢も踏まえて、「利便性の高いまちなか居住」について考えてほしい。

部会長 大きく2つの意見であった。1つは都市構造概念図において、周辺との連携をしっかりと考えるということ。もう1つは地形や地勢を踏まえて計画をしてほしいということである。

事務局 市内交通については、アンケート調査の結果から、どこに住んでいる人がどの駅を利用して通勤しているかについて分析を行っている。これを見ると、鹿ノ台では、学研登美ヶ丘駅を使い通勤している。あすか野などでは白庭台の駅を使い通勤している。おそらくこれらの人は、車での送迎やバスで鉄道駅まで行っていると考えられるが、20年後、30年後はどう変わっているのか、公共交通のあり方についてはしっかりと都市計画マスタープランの中で位置付けていきたい。また、公共交通協議会でも議論すべきと考えている。

地勢について、「はじめに」では触れられていないので、しっかりと記載していきたい。

部会長 傾斜地であることは弱点でもあるが、逆に言えば山が近く、緑や自然が近いという良さもある。生駒らしさにもつながることなので、しっかりと言及してほしい。

委員 2-10 ページの図の色分けは何を表しているのか。

事務局 青色は主にオールドニュータウンが含まれる生活交通圏域、茶色が田園集落地を含む生活交通圏域、黄色はそれ以外の地域というように色分けをしている。それぞれの地域に特徴があるので、このような色分けをすべきかどうかアンケート結果も踏まえながら検討していきたい。

部会長 将来都市像の「自分らしく輝けるステージ・生駒」、目標の「住まい方・暮らし方を選択できるまち」が一見すると目標が2つあるように見える。それぞれの関係性を教えてほしい。

もう一つ、生活交通圏域イメージ図において、交通と暮らし方を結び付けて考えられている。これについてみなさんにご意見を伺いたい。

事務局 将来都市像と目標の違いについては、先ほどの「まちづくり」「都市づくり」と同様に区別したいと考えている。ソフト・ハードの両面を含めた市の方向性は総合計画で示されている「自分らしく輝けるステージ・生駒」であり、都市づくりの目指す姿として「住まい方・暮らし方が選択できるまち」としている。

部会長 整理されているのであれば良い。「選択できる」という言葉は少し都市間競争を想起する印象があるで、違う言葉のほうが良いかもしれない。例えば「多様な暮らしを受け止める」など。最終的には事務局判断に任せる。

委員 交通網について、新型コロナウイルスの影響もあり、奈良交通のバスが減便している状況がある。10年後も現在の交通網があるという前提で考えてしまうと、実際の状況とギャップがでてきてしまうのではないか。今回の検討は、現在と同じような公共交通の状態が維持されているという前提なのか、減っているのか、それとも地元で補完していくという考えなのか。どのように考え

ているのか。

事務局 その点については、しっかりと考えていかなければならない点である。先ほど生活交通圏域イメージ図を示したが、その生活圏域の中で、公共交通をどのように維持していくかということを考える必要がある。例えば鹿ノ台では高齢化が進行しており、新しい住民を増やしていかなければ公共交通を維持することは難しい。そのようなニュータウンで、どうすれば新しく住んでもらうことができるか、ということを都市計画マスタープランで打ち出していかなければいけない。公共交通を維持するために何をすべきか、ということを都市計画マスタープランに位置付けていきたいと考えている。

部会長 交通の話はおそらく 2-9 ページにも含まれるのではないかと思う。さきほど課題にデータを追加するという話もあったが、人口減で利用者が減っているなかで公共交通をどうやって維持していくかといった視点は当然必要である。

委員 将来都市像は総合計画で掲げられているもので、総合計画においても当然、課題や背景から導き出されていると考えられる。そのような、総合計画の将来像と今回の都市づくりの課題も踏まえ、都市づくりの目標を導き出されているのだと思うが、将来都市像から都市づくりの目標が導き出された流れが分かりにくい。もう少し伝わりやすい示し方が必要ではないか。

生活交通圏域について、それぞれの地域に拠点となる鉄道駅があり、その拠点を中心としてネットワークでつなぐ、という考えは理解できる。しかし、圏域とはいったい何かというのが分からない。また、図を見ると圏域から外れている場所もある。これらを考える上で念頭にあるのが立地適正化計画であると思うが、立地適正化計画では、誘導区域を設定し、市街化区域の中でもゾーン分けされている。今回の生活交通圏域イメージ図では、圏域内の人は、拠点となる鉄道駅に向かい、そこに行けば色々な生活に必要な施設があるという意味合なのか、その辺りを詳しく教えてほしい。

事務局 総合計画の課題の中から都市づくりに関する課題を抽出し、総合計画にはない都市づくりの課題を追加したものが第 1 章の課題である。この流れが伝えきれていないということであるので表現を工夫していきたい。

生活交通圏域のそれぞれの範囲について、具体的な町丁目ではどうなるのか既存のバス路線をもとに現在検討している。また、この図が、生活圏域図がよいのか、交通圏域図がよいのか、悩ましい部分もある。日常生活の生鮮食品や日用品の買い物場所について分析しているが、ほとんどの方が車移動で、生活圏域を設定するのが非常に難しい。やはり、公共交通を軸とした圏域で見て

いく必要がある。公共交通の維持や再編、コミュニティーを育むという視点で圏域を設定することが、今後の持続可能なまちづくりにつながるのではないかとこの考え方である。

委員 圏域とは、現状も踏まえて、圏域内では最低限の移動手段を確保し、圏域をまたぐ移動についても並行して確保していく、という基本的な方向性を示すもの、ということか。市全域に圏域を定めているが、市街化区域内だけという考え方もある。圏域内の移動手段を公共交通で確保するとなると、人口の少ない市街化調整区域でも公共交通を確保するということになるので、その辺りが気になる点である。

部会長 生活交通圏域イメージ圏、地域別構想の圏域、小学校区、中学校区、北・中・南など生駒市の地区割がいくつかあるがそれらの関係性も整理しておいたほうが良い。

・事務局から説明（資料5）

・意見等

部会長 都市計画の分野で実現できないことが多く書かれており、総合計画との違いが分からなくなっている。この中から都市計画でしか実現できないことを示すのが都市計画マスタープランではないのか。

事務局 今回の都市計画マスタープランでは、分野横断的に連携しながら幅広く施策を展開していきたいと考えている。連携するために、テーマごとの方針を掲げ、総合計画から都市づくりに関係するものを抽出している。

部会長 思いは分かるが、やはり都市計画で実現すべきことをきちんと記載するべきであり、都市計画では出来ないことを示してしまうと無責任な計画になってしまう。例えば、保育士の確保は都市計画では解決できない。連携して総合的に取り組むという考えは良いが、その中でも都市計画が何をすべきかを示さなければ、都市計画マスタープランとは言えない。

また、「規制緩和による働く場や買い物できる場づくり」とあるが、「規制緩和」という言葉の使い方が違う。規制緩和というのは出来ないことを出来るようにすることであり、ここで述べているのはルールを見直すという内容である。言葉づかいを見直してほしい。

委員 「都市づくりの方針」であるが、内容はかなり具体的な施策が書かれている。

「方針」とは、もう少し大まかな方向性を示すものである。現在の書き方をするのであれば、「施策集」と呼ぶような内容ではないか。

部会長 「環境」という言葉が頻出するが、使い方を吟味してほしい。例えば、「環

境づくり」と「環境に配慮したまちづくり」は、一般の方には違いが分からない。「都市づくり」と「まちづくり」の使い分けと同様に言葉の整理をしてもらいたい。

(2) 次第3 地域特性に応じたまちづくりについて

- ・事務局から説明（資料6）
- ・意見等

部会長 地域特性に応じた「まちづくり」とあるが、これは「まちづくり」でよいか。

地域ミライ会議は都市計画の分野だけでなく、幅広いことを話し合ってもらうのではないのか。「都市づくり」を踏まえた「まちづくり」について議論するのであれば、「まちづくり」で間違いではない。

先ほど圏域の話が合ったが、地域別構想は北・中・南の分類で、その中に生活圏域や交通の圏域などが重なり合うという理解で良いか。

事務局 北・中・南は従来の考えで、地域類型に細かく分類する必要もあると考えている。

部会長 他に意見は無いか。

前半の1章、2章については、大きな意見は無かった。「表現が分かりにくい」という意見があったので、言葉づかいも含めて整理してほしい。また、生活圏域という概念は良いが市街化調整区域を含むのかどうかなど、もう少し考え方を明確にする必要がある。

3章の都市づくりの方針については、都市計画と他分野との内容を整理し、都市計画としてすべきことをもう少し明確にする必要がある。

4章の地域特性についても言葉づかいを整理してほしい。

（事務局から連絡）

部会長 以上で会議を閉会したい。

以上